

本願寺 御歴代門主シリーズ

その十九

本願寺第二十代宗主

広如(こうによ)上人(二七九八年～一八七一年)

広如上人は一七九八(寛政一〇)年に誕生されました。

一八二六(文政九年)に本如(ほんによ)上人(往生のあとを承け、二十八歳で本願寺の法灯を継職されました。

広如上人はそれより四十五年間寺務を執られましたが、当時は幕末・維新期にあたり、天皇中心主義の神道・排仏論が推進され、仏法衰退の危機にありました。

広如上人はその神道国教政策・廃仏政策の逆風のなか、近代教団の歩むべき道を模索されました。

また広如上人が継職された当時の日本は、西洋の諸外国が開国を求めるなど、国際関係が緊張した状態にあり、また、幕府や諸藩は経済的にも貧窮しており、内問わず混沌とした社会状況でありました。

当時の宗門の財政も貧窮しており、莫大な借財を抱えていました。

このような状況より、広如上人は本願寺の財政改革に着手され、そのために大阪商人の石田敬起氏を起用し、本山においては儉約を励行し、門末においては信仰の繁盛



本願寺第十九代宗主 広如(こうによ)上人

を進められ、懇志募財のほか、現在の賦課金(ふかきん)にあたる三季冥加制度(さんきみやうがせいど)などを創設されました。

その結果、財政の回復に成果が見られましたが、借財の完済には一八七七(明治一〇)年頃までかかりました。

一方、広如上人は勤式に関して、それまで正信偈の節譜(唱誦法)が十種類唱えられていたものを、真譜(しんぷ)・墨譜(ぼくぷ)・中拍子(ちゆうびょうし)・草譜(そうぷ)・舌々行(せぜぎよう)の五種類に改訂されました。

なお、正信偈の節譜はその後、第二十三代勝如上人の時、真譜・行譜・草譜の三種に改訂され、現在に至っています。

広如上人は一八七一年(明治四)年八月十九日(旧暦)、七十三歳で往生されました。

※参考文献 福間光超著

「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

今後の法要スケジュール

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要」(善教寺本堂)

九月 十六日(火) 午後一時半

* 毎月十六日に本堂において勤めております。

「秋季彼岸会」(善教寺本堂)

九月 二十日(土) 朝席：午前十時

昼席：午後一時半

講師 長尾量之師(東広島市黒瀬町浄願寺)

* 送迎マイクロバスを運行します。

「護持会報恩講」(善教寺本堂)

十月二十五日(土) 朝席：午前十時

昼席：午後一時半

講師 小泉信了師(兵庫県たつの市浄泉寺)

* 送迎マイクロバスを運行します。



ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://www.otera.or.jp/> メール zenkyo@otera.or.jp